

サッカー

28日～1月10日・東京ほか

秋田商

(2大会ぶり
46度目)

全国で輝け

大舞台に挑む本県高校チーム

⑥

2大会ぶりの全国選手権に向けて練習に励む秋田商の選手。同校グラウンド

さきがけ 動画



2大会ぶりの全国選手権は第100回の記念大会。通算46度の出場回数は全国最多。過去2度の優勝を誇る伝統校として、節目の大会での飛躍を期す。

「戦い走り守る」。MF中野宏宣主将(3年)が今年のチームコンセプトとして、よく口にする言葉だ。球際の強さ、疲れ知らずの豊富な運動

量、「赤い壁」と称される壁守の三つは秋田商の強みとして脈々と受け継がれてきた。主将の重責を担う中野は「自分たちのベースとなる部分。強度を高めて全国の舞台でも買き通したい」と誓う。

マイボールにした後は相手守備の状況を見てDFラインから丁寧につなぎ、相手の圧力をいなして好機を狙う。ボールを大事にできるからこそ

縦への速さが生きる。「隙を見て速い攻撃に転じたい」と中野。県大会決勝では1点を追う後半、DF木内翼(1年)が供給した長いスルーパスにFWが抜け出し、そのままゴールへ流し込んだ。テクニクのあるMF近野由安(3年)をはじめ、多様なタイプの選手が前線にそろい、攻撃の選択肢は豊富だ。

1回戦で対戦する東福岡

(福岡)は2大会連続22度目の出場。3度の優勝を誇る強豪で、高校年代最高峰のプレミアリーグウェスト(10チーム)でクラブの下部組織などとしての力を削る。激戦の福岡県大会は準々決勝から決勝まで3試合連続で延長戦やPK戦を制した。

秋田商の小林克監督は「技術が高く隙の少ないチーム」と警戒する。一方で県大会の

受け継いだ強み貫く

準々決勝、準決勝でいずれも先制されている点に注目し「揺さぶって、どこかにある一瞬の隙を突きたい」と話した。

ボールを保持されて押し込まれる展開も予想されるが、DF鈴木悠太(同)は「全員でカバーし合って守備をすることが大事。球際ですばる負けないこと。ディフェンスの選手として後ろから声を掛けて盛り上げたい」と抱負を語った。

(伊藤正孝)

位置	氏名	前所属	身長	体重
GK	藤秀人③	FCあきた	176センチ	75キロ
DF	船川充希②	BB秋田U-15	173センチ	58キロ
DF	木内翼①	FCあきた	177センチ	62キロ
DF	鈴木悠太③	BB秋田U-15	181センチ	69キロ
DF	相馬駿汰③	FCあきた	178センチ	72キロ
MF	泉楓馬②	USポート	163センチ	62キロ
DF	高嶋綾斗③	FCあきた	178センチ	77キロ
MF	吉村隆助③	FCあきた	170センチ	62キロ
FW	川辺瑞輝②	FCあきた	177センチ	64キロ
MF	中野宏宣③	BB秋田U-15	157センチ	53キロ
MF	近野由安③	BB秋田U-15	174センチ	64キロ
GK	柿崎健太②	BB秋田U-15	172センチ	61キロ
FW	齋藤心護③	グランデFC	161センチ	65キロ
MF	光田楽生②	BB秋田U-15	170センチ	62キロ
MF	柳村奈祐太②	FCあきた	163センチ	60キロ
MF	櫻庭瑠生③	FCあきた	167センチ	61キロ
FW	泉海斗①	FCあきた	175センチ	59キロ
MF	米谷海②	秋田東中	169センチ	62キロ
DF	畑村匠毅②	エレファントコキリ	176センチ	64キロ
DF	飯田優陽②	エレファントコキリ	168センチ	61キロ
MF	齋藤楓真①	FCあきた	166センチ	63キロ
FW	長谷川悠真①	FCあきた	171センチ	74キロ
MF	石田聖真①	FCあきた	164センチ	60キロ
DF	鈴木千夏②	アントラーズつくば	178センチ	82キロ
GK	竹内立②	大曲中	180センチ	68キロ
DF	佐藤大徳③	秋田南中	175センチ	69キロ
MF	佐藤文太②	FCあきた	166センチ	55キロ
MF	後藤楓太①	FCあきた	169センチ	59キロ
DF	大山琉希①	FCあきた	174センチ	62キロ
GK	北林通③	勝平中	170センチ	70キロ

(丸数字は学年、◎は主将)



©秋田魁新報社